

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム 城南スマイル (うららユニット)		
所在地	熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成29年3月15日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

熊本市の南側に位置する城南町隈庄地区の商業施設の後方にある田園と住宅街が共存するのどかで静かな環境の中にあるグループホームです。地熱を利用した高気密・高断熱で年中快適な室温、採光の工夫により明るく過ごして頂ける建物です。熊本地震では耐震構造にて建物に被害なく利用者様には安心安全に過ごして頂く事ができました。近隣には協力病院と当法人の地域密着型特養があり医療面や緊急時の協力体制が整っています。尚、どなたでも入居しやすいように低額の利用料金設定を行っています。地域の行事(スポーツ大会・一斉清掃等)に参加し地域の方とのふれあいの機会を大切にしています。毎年年末には区長、消防団始め地域の皆様や家族にも参加協力して頂き「もちつき大会」を開催し楽しいひと時を過ごしています。約100名の参加があり大盛況でした。「利用者本位」を念頭に思いやりの気持ちをお一人おひとりが安心して穏やかに過ごして頂けるよう優しくそっと寄り添う支援を行います。そして自分らしくその方の思いを大切に役割と楽しみのある暮らしを支援します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

開設当初から地域との関係性に注視してきたことが、運営推進会議や年末の餅つき大会に出出し、長年福祉に携わってきた管理者のリーダーシップの下、質の高いケアが実践されている。最高齢106歳という現状にあるが、できる事は自分での思いを持った日常生活や労いながらの生活ぶりに、自然体で対応と根拠のある支援を両立しながら、利用者本位 常に相手になって”とする理念の具現化へまい進する姿勢が確認された。今回の熊本地震ではハード面での被害は無いもの、職員の被災という現状に、近くに住む職員が駆けつけ、この難局を一致協力しながら乗り切っている。この経験が職員同士や家族との関係性を強固なものとしている。運営推進会議を介した職員採用など、この会議の持つ意義も明確にしており、透明性のある運営体制であることが家族や地域からの信頼として生かされている。高齢化するなかで、協力医療機関との連携や、系列特別養護老人ホームの存在も心強く、安心した日常生活が営まれている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に理念の唱和を行い職員としての心構えを再確認すると共に職員としての自覚を持ち理念の共有を行い業務に取り組んでいる。	法人理念及び行動指針をケア規範とし、相手の立場や自分に置き換えたケアを行うことを念頭に置き、問題発生時の振り返る原点として位置付けケアに反映させている。地域密着型サービス事業所として地域に密着しながら溶け込む、地域全体を見据え、信頼関係作りにはまず行事に参加しながら啓発に努めている。“今 この瞬間”に笑い、悩み一緒に歩くとするこの思いも職員のケア姿勢に表れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(スポーツ大会・親睦会等)、一斉清掃に参加し地域の方々との交流を大切にしている。時々近所の保育園の園児の訪問があり楽しみにされている。年末には地域の方と「餅つき大会」を開催し100名を超す参加があつている。	住所をホームとした入居者は区民の一人として自治会に加入し区費の支払いも行う等地域の一員として受け入れられている。ホームとして地域行事や会合への参加、年2回の清掃活動等に出かけながら地域との交流促進に努めている。ホームは気軽に立ち寄れる環境であることや、保育園児の訪問や、お隣との関係も良好であることも確認された、最近ではホームの存在を気にして足を向けられる住民の姿もあり、道路の看板設置が検討されている。	外出した入居者を連絡される等地域住民から優しく見守られ、回覧板も回ってきている。更に、家族への多くの写真が残されており、情報発信元として回覧板を活用されることを区長等と相談いただきたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の訪問がありグループホームについての質問が聞ける様になってきており認知症についての説明や対応についてなど分かりやすくお話ししている。気軽に訪問して頂ける様な雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しておりいろいろな意見やアイデアを出して頂いている。この会議での意見から年末の「もちつき大会」に繋がり地域の方々にとっても楽しい行事になっている。	地域包括支援センターや区長・民生委員と家族をメンバーとして2ヶ月毎に開催する運営推進会議はホームからの報告を基にした意見交換が行われている。餅つき等の行事を検討する機会としてこの会議が生かされ、地震や大雨時の対応等も報告している。また、外部評価結果及び目標等も開示している。この会議で人材不足について話したことをきっかけとして入職に繋げ、民生委員もボランティアとしてホームに関わりたいと協力的な姿勢で臨まれている。	運営推進会議開催時にホームの目的や運営方針等も説明し、資料も作成されているが、参加者は少ないようである。回を重ねると形骸化しかねない。避難訓練や餅つきに参加される消防団や、近くにある駐在所等今後関わりが必要と思われるメンバー等を検討いただきたい。また、楽しみながら参加できるように工夫されことで参加者も増える事と思われる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	熊本市から月1回介護相談専門員の訪問があり利用者様との会話の中から思いや気づきをお尋ねすることでケアにつなげている。地域包括支援センターからは運営推進会議は勿論、もちつき大会にも参加協力頂いている。	介護相談員制度の活用や、不明な点は電話等で相談している。また入居者の経済的な面で市役所保護課と連携し、訪問調査やプラン提出に出かけながら情報交換を行っている。運営推進会議のみならず、ホーム行事(餅つき等)に地域包括支援センターや社協からの参加を得る等協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から言葉の抑制も拘束であることを職員一人一人が意識しお互いを観察しあい不適切な対応と感じた時は注意し合うように心がけている。	職員の「ちょっと待って、座っていて」等の言葉も抑制になると認識し、馴れ合いの言葉、方言、スピーチロック等全員で話し合い、職員同士注意喚起している。転倒防止にマットを床に敷くなど工夫した事例もあるが、夜間使用するセンサーマットは家族に説明し同意を得ている。入居者の外出傾向を把握し、外出されそうな気配を感じた場合には即時声を掛け、見守り、所在確認を徹底していたが、無断外出された事例がある。	玄関、裏口等オープンな環境にあり、今後も見守り、所在確認の徹底について全員で検討されることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員お互いが観察行い、見過ごすことが無いように声をかけあい注意し合いながら虐待防止に努めている。必要と思われる際、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に入居後に成年後見制度を利用された方がおられなぜ必要かなど実際に学ぶ機会があり理解を深める事が出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得されるまで分かりやすい説明を心がけている。安心して頂ける様、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は勿論、ご家族の面会時には職員全員が声かけに努め馴染みやすい雰囲気づくりを心がけ信頼関係につなげている。また、運営推進会議や家族連絡会等の中でも意見交換を行ったり要望をお尋ねしてサービスの向上に努めている。	入居者及び家族との馴染みの関係や言いやすい環境を作り、訪問時等に要望等を聞き取りしている。また、敬老会の開催前に家族と話し合いの時間を作っているが、意見や問題とする苦情も出されていない。第三者委員の存在やホーム内外の苦情相談担当を明確に、苦情に関しては記録簿に残し、全職員で検討する体制としている。	広報委員の存在を生かし、家族への情報源としてのホーム便りの作成を検討いただきたい。今後も家族に忌憚の無い意見や提案をホーム運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から誰でも意見やアイデアが出しやすいよう雰囲気づくりを心がけている。職員間のコミュニケーションをしっかりと取り徐々に意見、提案が多く出るようになっていく。	管理者は日々ケアに入りながら職員とのコミュニケーションを図り、毎月の会議の中でユニット間の伝達・連携や、勉強会の在り方等合議により決定している。職員からの備品などの要望には管理者を通じて上申する体制である。職員へのストレスチェックを実施し働きやすい環境の整備に努め、職員のケアに関する事案に一度やってみて、更に検討することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には年2回の自己評価の際、振り返りと目標を掲げてもらいその達成状況にて賞与等に反映させている。ストレスチェックを行い出来るだけ働きやすい環境の整備を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな研修の情報を提供し資格推進に努めている。必要と思われる時はその時に個別に指導おこなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市ブロック会やささえりあ火の君の研修会に参加し同業者との交流に努め情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が話しやすい雰囲気づくりを心がけ不安や要望等をしっかり伺い安心安全な暮らしに繋げている。優しい声かけと傾聴を心がけ信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	話しやすく親しみやすい雰囲気づくりを心がけ不安や要望等家族の思い、悩みに耳を傾け信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は必要なサービスの見極めを行い法人全体でのサービスや様々なサービスを視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り家庭的な雰囲気づくりに努めると共に安心な暮らしの中、洗濯物干しや洗濯物たたみ等職員と一緒に支え合いながら継続する事により家族のような関係が築けている。それぞれに自分の居場所があり自由な暮らしが出来ておられる。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは日頃から連絡を取り合い情報交換に努め情報の共有を図っている。体調等に変化ある時は家族に連絡相談行い早めの対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰もが立ち寄りやすいグループホームであるよう雰囲気づくりに努めている。家族や友人、従姉弟、親類の方など気軽に訪問して頂いている。家族や友人と旅行やドライブ、外食を楽しまれる事もある。	家族との関係を継続するための努力をしており、訪問して長時間をホームで過ごされる家族や親類、元同僚等の訪問、友達による墓参支援、年に数回家族との旅行に出かける方や、帰省した家族と数日間を実家で過ごす等馴染みの関係を継続して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく安心して過ごせるようテーブルやソファの席を調整したり不穏なく楽しく会話が出来るか見極めをしっかりと行い対応している。利用者同士で悩みの相談をされアドバイスされている姿も見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された方については退所後も家族と連絡取り合い情報交換を行い今後必要と思われるサービスについては法人全体の取り組みとして相談、支援に取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や生活歴、本人の日々の暮らしの中で見せられる表情や言葉、態度から「そっと寄り添うケア」を目指して意向の把握に努めたり察することで対応している。	自分の意思を持ち続け、直接職員に申し出る方等日々の生活の中で希望や意向を聞き取りしたり、入居者同士の会話の中からヒントを見出しケアに反映させている。発語や意思疎通も困難な状況も見られ、家族や以前のケアマネジャー等に聞き取りしている。また、表情・行動等のサインを推察しながら、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、友人、知人との会話の中から生活歴や暮らし方などの情報を得ている。以前、関わりのあった事業所からの情報も頂くことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれの性格や体調を把握できる事、出来ない事を見極め穏やかに「その人らしい暮らし」が出来るよう他者との関係も考慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人は勿論、面会時には家族の意見・要望を伺っている。介護職員や看護師の意見は勿論主治医の意見も取り入れて作成し定期的に見直しを行っている。	入居時及びプラン見直し時ADLを基にした援助方法を決め、定期的に家族と話し合いを持ち、新たなプランを作成しており、意欲低下・機能低下による個別ケアの見直し等現状に即したプランが作成されている。また、自分らしい生活等をプランとする等理念である“利用者本位～”も反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノート、職員間の会話の中から情報の共有を行い介護計画書の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれの性格状況を見極め希望も聞きながら同法人の事業所や他事業所と連携を図り協力・調整を行い出来る限りその方に必要な支援に努めている。家族の支援が出来ない場合の受診や買い物支援等柔軟な支援サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり近くの病院受診や買い物も地域の方々とのふれあいの場になっている。尚、近所の保育園児とのふれあいや近隣の方の訪問は利用者の楽しみの一つとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が選ばれた病院に受診されている。協力病院とは常に情報交換を行い早めの対応が出来ている。協力病院以外の病院においても必要に応じて情報交換を行いながら対応している。	かかりつけ医は家族に決めていただくこととして、遠方の場合はホーム側は付き添うことが出来ないことを説明している。定期受診は基本的には家族とし、緊急時にはホームで対応している。待ち時間が少ないように早めに受診を連絡し、インフルエンザ予防接種は往診での対応も可能である。バイタルチェックにより健康管理を徹底し、歯科受診も家族対応としているが、訪問歯科を利用される方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定行き様子観察に努めており体調不良等ちょっとした変化がある時の気づきや情報はすぐに看護師へ報告相談行い適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医や看護師、ソーシャルワーカーと情報交換行い相談しながら早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時及び重度化された場合、当グループホーム内のできる事、できない事、法人内事業所のできる事等を説明出来る限り希望・要望に沿った支援が出来るよう医療機関とも相談しながら対応している。	入居に際し、医療中心となるとホームでの生活は無理であり、看取りまでは行わないことを説明している。協力医院は診療所の為、夜間や日・祭日は休みであり、緊急時は緊急搬送としている。退院後の対応は法人と連携しており、特別養護老人ホームへの住み替えも視野に申し込みが済まれた方もおられ、ホームでの対応が困難になった時点で今後を話し合う等誠意をもって対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に慌てず対応できるようケアワーカーミーティング時の勉強会や内部研修にて訓練行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行っている。夜間想定での避難訓練を実施している。水消火器使用にて消火訓練も実施している。地域の区長、消防団の統括、団長との連携が取れている。	夜間を想定した消防訓練(1回は消防署、1回は業者立会い)を新しい職員を中心に行っている。自然災害について消防署に相談した結果、地域住民に協力を遺体するよう指導をうけている。ホームに協力的な区長や行事に参加される消防団等の存在は心強く、運営推進会議の中で地域と一体となって訓練を行うことを検討いただきたい。	近隣住民との相互協力体制の強化や、消防団との更なる連携が期待される。今回の地震を風化させないためにも区長を中心として、地域との連携について話し合うことが期待される



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「利用者本位 常に相手の立場になって」を念頭に尊敬の気持ちを忘れず思いやりある対応を心がけている。職員それぞれが笑顔を忘れず言葉遣いや口調等に気を付けながら対応行っている。	管理者は、トイレ介助時のドア開放にプライバシーを保つことを指導する等、「相手の立場に立って」とする理念の実践に向け努力している。入浴時の1対1での対応や、同性介助を希望される入居者への対応、着替え時のカーテン使用等に一人ひとりの人格を尊重していることが表れている。呼称は基本的には苗字にさん付けであるが、名まえの方が反応が良い場合や通称で呼んでほしいとする方等本人の思いに応えている。職員の守秘義務について特に指導されている。	食事のエプロンについて、使用の如何ではなく、本人にとってはどうなのか、全員で検討していただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ傾聴に努め日頃から本人の思いや要望を聞きながら本人の意思を大切に自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活習慣に合わせ起床時間や食事時間等その方のペースに合わせた対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を一番に対応している。自己決定できる方には自分で選んでいただき自己決定困難の方は職員と一緒に選んで頂いたり職員が選んだものを確認して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに「食べたい」という意欲を大切に尊重した対応に努めている。食器洗いなど可能な範囲で見守り支援を行っている。嫌いな食材は代替え品にて対応しおいしく食事できるよう支援している	ホーム内では朝と昼食を料理し、夕食は近くにある特養の厨房で作られている。入居者の中には簡単な手伝いをされることもあるがあまり関わりは無いようである。敬老会・クリスマス、正月や誕生日等の行事食や、時にはパン食や弁当、恵方巻、外出時の外食等楽しんでいる。	職員も検食を兼ね、一人でも同じ食事が摂れないか検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通して水分補給につとめている。尚、それぞれに合わせた食事形態を提供している。出来るだけ野菜は法人の畑で採れた無農薬の物を使用し安全においしく食事できるよう支援している。食事摂取量のチェックを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて口腔ケアをされている。必要に応じて一部介助を行っている。義歯の方は毎日、入れ歯洗浄剤による消毒を行い清潔に使用されている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの一連の動作は出来る限り自分の力を使って頂くよう支援している。リハビリパンツや尿とりパンツの使用を抑えることが出来るよう行動言動等のサインを見逃さないよう観察に努めている。リハビリパンツ使用だった利用者が布パンツに改善された例がある。	職員は排泄チェック表を活用しながら、個々のパターンを把握している、入居時にはリハビリパンツを使用されていたが失敗の無いことを確認し、布パンツに改善されたケースがある。自立でトイレを使用される方にも歩行的見守りを徹底し、尿意の有無により時間的な誘導や排泄用品を使いわけている。担当職員による排泄用品の購入は経済的な軽減に繋げ、リハビリパンツや尿取りパット等個々の行動や仕草等のサインを見逃さないことで気持ち良い排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努めると共に野菜等食物繊維を多く摂って頂いている。尚、歩行や体操等身体を動かしたり腹部マッサージを行い便秘改善につなげている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。入浴拒否のある方については時間をずらしたり対応職員を交代するなど臨機応変に対応している。声かけにも言葉を選んだり工夫を行っている	毎日入浴できるよう準備し、週3回を目途に支援している。午前中の入浴を嫌がられる場合には午後入浴としたり、入浴拒否に別日に対応したり、声掛けする職員を替えたり、主治医の名前を出してみる等無理強いすることなく支援している。着替えや清拭、特に夏場は清拭により清潔保持に努めている。職員との会話で入浴を楽しんだり、菖蒲・柚子湯等も取り入れ、見当識や季節感として生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの身体状況やその時の状態に応じて休息の支援を行っている。室温調整や寝具調整、衣類調整に努め快適に過ごして頂ける様支援している。優しい声かけやラジオ使用にて安心して穏やかに過ごせるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの内服説明書を個人ファイルに綴じており誰でも確認しやすいように対応している。症状変化ある時は主治医や薬剤師に相談行い早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活週間の中で洗濯干しや洗濯物たたみ等の家事継続の役割を持つ事で生活に張り合いを持たれている。手足の体操、口腔体操や脳トレーニング、カラオケ、合唱など毎日楽しみに取り組まれている。ちぎり絵や折り紙、雑誌を楽しんだり興味あることに参加されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族と外食やドライブに出かけられたり泊旅行や自宅へ外泊されたり楽しみを持たれている。毎年、招待にてミカン狩りを楽しまれている。受診の際、帰りにドライブして帰設する事もあり希望にて散歩を兼ねて近所のスーパーまで買い物に出かける事もある。近くの堤防までの散歩も楽しまれている。	ホーム内に居て外気浴を楽しめる環境にあり、朝からの日光浴を楽しまれる姿が確認され、時には玄関先でケートボールに興じることもある。日々の散歩や買物への外出や、受診を兼ねドライブしたり、ユニット毎に花見(桜や蓮等)や紫陽花見学、みかん狩り等支援している。また、家族との外出・外食等家族の協力も得ている。	入居者の歩行状態の違いなどによりユニット毎の外出の頻度に差があるとのことであるが、にじユニットの外出にうららユニットの職員が手伝いながら出かける等協力しながら外出を支援されている。高齢化する入居者の為に、“今 瞬間”の楽しい時間を今後も支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人の方がお金を自分で持っておられ時々近所のスーパーへ職員付き添いにて買い物に出かけられている。その他の方はお小遣いを預かっており必要時には使ってもらえる事が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は自由にされている。電話は掛かってきたりこちらから掛けたりできるだけ自由に支援している。旧友との年賀状や暑中見舞いのやり取りを継続されている方もおられ投函等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は高気密高断熱、地熱を利用しており1年を通して23~24℃に保たれており日中は自然の光の中で過ごすことができるよう採光に工夫をしている。月毎に替わる利用者と職員作の壁面飾りと居室入口の壁飾りが季節を感じさせてくれる。現在は職員手作りのお雛様に利用者の喜びの音が聞こえている。	地中熱を利用した自然空調は、年間を通して快適な室内環境となり、静かな自然環境のなかでユニットの垣根を超えた関わりと、ほとんどの時間を過ごす共有空間の中で入居者同士が語りあい、労いある姿が垣間見れるホームである。入居者の状況に違いにより、ユニットでの居室入口の明示方法の違いはあるものの、ちぎり絵等により季節感を醸し出している。玄関先のひな飾りや手作りのお雛様等訪問者の目を楽しませ、何よりも“親孝行”の書が職員の思いを表出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を変えたり席を変えたり不安なく穏やかに楽しく過ごせるようその時々状況で臨機応変に対応しながら安心して居心地の良い暮らしができるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまでの暮らしの延長として不安なく安心して居心地良く過ごして頂ける様、使い慣れた家具や寝具を持参して頂いている。	居室で安心して生活ができるよう、入居時使い慣れたものについて説明している。ベッド及び床頭台が備え付けられた居室には、仏壇や遺影、家具・ラジオやテレビ等が持ち込まれ、生活の場として整理整頓されている。携帯電話により家族との電話を楽しみとされるかたもおら、尊厳にも目を向けた居室環境とされることで、更に居心地につながるものと思われる、	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全に移動できるようバリアフリーになっている。居室入口にはネームプレート、トイレには目印を掲示する事で混乱を予防し安心して過ごせるよう工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390101261		
法人名	社会福祉法人 嘉悠会		
事業所名	グループホーム城南スマイル ～ にじ		
所在地	熊本県熊本市南区城南町下宮地397-2番地		
自己評価作成日	平成29年 2月12日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成29年3月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「火の君の里」で知られる城南町の自然豊かで、静かな住宅地の一角にあるグループホームです。周辺には浜戸川や田畑が広がり絶好の散歩コースとなって、自然を満喫することができます。建物は地中熱換気システム(GEOパワーシステム)と太陽光発電・トップライト・ペアガラス等を採用し、自然エネルギーを最大限に利用して四季を通して快適に過ごすことができます。尚、H28年4月の熊本地震では耐震構造の為に、被害発生がありませんでした。また近くには同法人の小規模特養と協力病院があり、医療面や緊急時の連携及び協力体制が整っています。どなたでも入居しやすいように、低額の利用料金の設定を行っています。更にお互いを思いやる気持ちを大切に利用者本位にお一人おひとりが安心して、安全で安楽に自分らしい暮らしができるよう地域の方々と連携を取りながら寄り添って支援します。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲示して、職員全員で共有している。また毎日朝礼時に理念の唱和を全員で行う事で、職員間で理念の共有化を図りながら実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園の園児との交流をしている。また町内会に加入しており、祭り・スポーツ大会・一斉清掃等の地域行事及び活動には積極的に参加している。更に区の一員として会報の回覧、当法人主催の餅つきの継続的な開催等で地域に根ざしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族の相談に対しては悩みを傾聴すると共に、認知症の理解や支援方法を具体的に事例を通して解り易く助言を行っている。また公的な専門機関の紹介など支援に繋げている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に6回運営推進会議を開催して、入居者の利用状況や様子及び行事報告を実施している。会議で出た意見や要望から保育園児との交流及び餅つきの継続的な開催(当ホーム主催)に繋がり、関係性の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回熊本市から介護相談専門員の派遣にて、なじみの関係が構築されている。また入居者が自分の思いを言語化する事によって、精神状態の安定が図られている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の根絶を職員全員で意識している。また外部研修の参加や職場内勉強会等で、職員間で共有化できるような取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアワーカーミーティングの後に、外部研修の復講や職場内勉強会を実施。また朝礼時に新聞記事及びニュース等を取り上げて、常に意識化している。更に職員間が相互に観察者となって防止できるように、取り組みを実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用されており、協力体制を取らせて頂いている。ケアワーカーミーティングの後に、外部研修の復講や職場内勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の不安や疑問に対しては、噛み砕いて解り易く説明を行っている。また安心感が得られて、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には近況報告(情報の共有化)を兼ねて、オープンに何でも遠慮なく意見が伺える様な環境作りに努めている。また意見及び要望等に関しては、早期解決に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアワーカーミーティングや日常業務の中で随時話し合っ、意見やアイデアを出しやすい雰囲気作りに努めている。また新入職者は職場内での疑問、経験者は業務改善案の発言傾向にあり。更に全員で話し合っ、早めの対応を心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所にて職員とコミュニケーションを図って、改善に努めている。また年2回各職員は自己評価を実施して、目標を掲げ達成状況により賞与等に成果として反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事前に法人内部研修や外部研修等に、計画的に参加できる機会を設けている。また職員の経験や個別目標に沿って、段階的に研修参加の案内や情報提供及び資格取得の推進を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熊本市ブロック連絡協議会の研修会には、参加して交流に努めている。また他ホームから職員研修を受け入れて、お互い研鑽を深めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困り事や不安及び要望等に耳を傾けて、安心して生活できるように支援している。また本人が言語化出来ない場合は、表情・言動・行動等サインの読み取りを行っている。更に家族と連絡を密に情報の共有化を図って、環境に馴染めるように工夫している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前及び契約時に必ず面会して、話しを聴くように努めている。思いを傾聴し安心感が得られて、必要なケア支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談受付後は、必要とされるサービスの見極めを行っている。また法人全体のサービスやその他のサービスについても視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念や自立支援の視点で、家庭的な雰囲気の中で家族と同様の意識で生活できていると思われる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	開かれたホーム作りを目指しているので、家族とのコミュニケーションを大切にしている。また情報の交換に努めて、情報の共有を出来る限り図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事への参加や通院の付き添い及び久しぶりに従妹と再会並びに、元同僚の訪問等出来る限りの支援を行っている。また近所の妹様宅へ訪問の支援を行うこともある。更に様々な形でご本人と家族等が共に過ごす時間を働きかけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者同士の関係性については情報を共有して、テーブルメイトやソファの席などの配慮に努めている。また良好な関係を築いて、過ごせるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所前の相談にも気軽に応じて、転居先にも惜しまず情報提供を協力している。また時々面会に行き、馴染みの関係をできる限り継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、個々の思いや暮らし方の希望及び意向の把握に努めている。本人が言語化できない場合は、表情・言動・行動等サインの読み取りを行って、家族情報や生活歴等から思いや意向を考慮して対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との会話の中から生活歴及び、これまでの暮らしについて情報を集め把握に努めている。また入居後は家族や本人との会話の中から、少しずつ本人の意向に近づけられるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との関わりの中で常に、現状を把握し段階的にケアにあたっている。また利用者が持つ力を見極めて、出来る限りその方らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望及び要望を把握して、モニタリングを参考に介護計画を作成している。また担当職員や主治医及び看護師の意見も踏まえて、定期的に評価・修正すると共に必要な場合は随時行なっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での利用者の変化や気づき、統一すべき事項等は、ケース記録及び職員間からの申し送りや連絡ノートに記載して情報を共有してケアに生かしている。また食事摂取量・水分量・排泄・バイタル等の記録はチェック表を活用して、解り易いようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族付添いが出来ない時の定期・臨時の受診支援や個別の買物支援等、ホームの方で対応している。また既存のサービスに捉われないケア実践に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児との交流や近隣の方の訪問は、入居者の楽しみな時間となっている。またスポーツ大会等、地域の行事に参加している。更に避難訓練は計画の策定段階にて、地元消防団員やボランティア及び町内会の方々の参加協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族の希望で決めて頂いている。また月1回の定期及び臨時受診の介助を行いながら、迅速に対応している。更に他の専門医への受診前後には、協力医院に報告・連絡・相談をする事で強い関係性を確保している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の健康チェックを行うと伴に、情報交換を密にして迅速に対応できるようにしている。また看護職員が配置されて、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援に努めている。更に利用者の状態を知らせる連絡表を作成し連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や主治医及び医療関係者の方とは連絡を密にして、治療が受けられるよう支援している。また入院前の状態の情報提供や電話及びFAX・来院等で連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の場合はホームで出来る精一杯の支援について家族説明を行って、今後についての協議を行っている。また出来る限り家族や本人の希望及び要望に沿った、最良な援助が出来るよう医療機関との連携を取りながら職員全員で取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ケアワーカーミーティングの後に外部研修の復講や職場内勉強会等において、救急の対応については対応例を参考にシミュレーション等を交えながら学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の利用者と共に火災及び地震並びに水害を想定した避難訓練を行って、避難経路の確認・消火器の使い方・備品の充実を実施している。また地元消防団やボランティア及び地域の皆様の協力を得て想定避難訓練を実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念の「利用者本位」や個別対応を基本にしている。また利用者の立場になって尊敬の気持ちを忘れずに、優しい対応に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の困り事や不安及び要望等に耳を傾けて、安心して生活が送れるようにしている。また複数ある場合の菓子や外食メニュー及び衣類並びに買い物等、選択・判断・決定の機会を捉えて活かすように日常からアンテナを高めて気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないように、個々のペースを大切にしている。また自己決定に添って、自由に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思決定に添って可能な限り一緒に選んでいる。また自分で選ぶ事が困難な方については、職員が人の好みを伺い選んで確認して頂けるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲の準備、テーブル拭きや下膳及び湯呑洗い等を一緒にしている。また家族と一緒に、外食する利用者もおられる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックを行って、摂取量の把握に努めている。また個々の状態把握に努めトロミを付けたりして、食べやすい形態等で提供。更に安全においしく食べる事が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行って、段階的に支援を行っている。また口臭予防や感染防止として、歯磨き・お茶嗽・手洗い・手指消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で、個々の排泄パターンを把握できている。また利用者の仕草や落ち着かない行動等サインを見落とさないよう観察を行って、トイレへの声かけや誘導及び声かけ並びに一部介助を個別に行っている。更に要介護5の方も日中は、トイレでの排泄を基本にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多目の水分摂取をして頂いている。また食物繊維やヨーグルト等で腸内環境を改善。更に散歩・体操・腹部マッサージ等、便秘の改善に取り組んでいる。そして必要に応じ主治医に相談を行って、内服処方をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日と入浴時間の設定はあるが、利用者の希望があれば設定以外でも入浴を行っている。また拒否ある時は順番を変更したりして、声かけ方法に工夫を行い臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活サイクルに合うように、出来る限り自由に過ごせるよう支援を行っている。また安心して頂ける声かけを心がけて、快適に過ごせるよう環境整備を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報文書を個人ファイルに綴って、確認できるよう支援している。また薬の確認表にてセットして、ダブルチェックを行っている。更に与薬チェック表にチェックを行って、確実に与薬確認を行っている。更に状態変化時は主治医や薬剤師へ相談を行って、迅速に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リズムをつける意味で、体操や月毎の歌を利用者と職員で話合っている。また家事・掃除・下膳・挨拶等の役割を持って、継続できるよう支援している。更に日常的な散歩・外気浴・昔話・会話・買い物・ドライブ・誕生日会・クリスマス会・もちつき等、日常で張りのある毎日が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別買い物の利用者同伴や、玄関前での外気浴や日光浴。また近所の妹様宅へ職員と一緒に訪問。更に短時間のドライブや家族にも時折お願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、買い物支援している。また家族の同意の上で紛失も前提に、小額の金銭管理をご本人に託している。更に所持される方は3千円迄で、お願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は、直に本人へ取り次いでいる。また毎日娘様から電話が掛かって、毎日の楽しみな事となっている。更に自ら電話が出来ない利用者には、スタッフが代わりにダイヤルして、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然のエネルギーを利用する地中熱換気システム(GEOパワーシステム)の建物で、四季を通して快適に過ごすことができる。また日中は自然光の中で過ごせるように、採光に工夫している。更にリビングで過ごされる際は、自分の居場所を確保されており楽しく過ごされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	殆どの入居者がリビングで過ごされて、自分の居場所を確保されている。また気の合う者同士となる席の配置等、調整している。更にトラブルがあれば、早期に席の変更を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたテレビ・時計・整理ダンス・仏壇・衣装がけ等、馴染みの物や大切な物を持ち込まれ本人が安心して過ごしやすい配慮に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで廊下・トイレ・浴室の手すりを設置。また居室にはネームプレートを掲示トイレは大きく表示して、分かる工夫に努めている。更に安心感が得られる生活空間を提供できている。		

